

# 中学校国語科における思考ツールを使った 読みの授業の実践的研究

川田 英之 ・ 大西 小百合 ・ 山本 茂喜\*  
(附属坂出中学校) (附属坂出中学校) (国語教育)

762-0037 坂出市青葉町1-7 香川大学教育学部附属坂出中学校  
\*760-8522 高松市幸町1-1 香川大学教育学部

## Practical Study using “Thinking Tools” in “Reading” of Japanese Classes in Junior High School

Hideyuki Kawata, Sayuri Onishi and Shigeki Yamamoto\*

*Sakaide Junior High School Attached to the Faculty of Education, Kagawa University,  
1-7 Aoba-cho, Sakaide 762-0037*

*\*Faculty of Education, Kagawa University, 1-1 Saiwai-cho, Takamatsu 760-8522*

**要 旨** 中学校国語科の読みの授業に思考ツールを用いることの効果を検証した。三読法の過程における思考を分類し、精読段階における六つの思考に有効な思考ツールを示した。実践研究の結果、読みの広がり、深まりに有効に働くことが明らかになった。

**キーワード** 三読法 思考ツール 読みの構築の過程 交流 メタ認知

### はじめに

思考ツール（シンキング・ツール, thinking tool）とは、Yチャート、PMI、ベン図など、思考の過程や枠組を可視化したワークシートや図・表などの総称である。視覚的に表して組織化するものという意味で、グラフィック・オーガナイザー（graphic organizer）とも言われる。アメリカでは、児童生徒に思考スキルをわかりやすく、しかもその過程を意識させるための教育方法として広がってきたものだとされる<sup>1</sup>。日本の教育においても、最近注目されつつあり、実践も増えてきている<sup>2</sup>が国語科における実践はまだまだ少なく、中学校における実践となるとほとんど例がない。

筆者は先行研究において、ビジュアル・ツールが中学校国語科の「書くこと」「読むこと」において有効であることを明らかにした<sup>3</sup>。しかし、「読むこと」における個の多様な思考に対応するには、目的とする思考の方法によって多様な種類のある思考ツールがより有効であると考えられる。とりわけ、思考ツールが「思考を図式化することによって、思考スキルを学ぶだけでなく、その過程をモニタリングすること、つまりメタ認知の技能を育成することも可能<sup>4</sup>」であるならば、国語科における読みの交流を通じたメタ認知的変容による個の読みの成立<sup>5</sup>にも有効に働くのではないかと考える。

本論は、中学校国語科の読みの授業において、思考ツールを用いることの有効性について

実践をもとに検証することを目的とする。

## 1 目的別による思考ツールの分類

先行文献より、思考ツールの分類について検証を試みる。

### (1) 大庭による分類

大庭コテイさち子はハイアラーが体系化した八つのマップを軸に、アメリカの教育現場で使われている代表的なものを次のように分類し、紹介している<sup>6</sup>。

- ① 「○で考える」(可能性を模索する) … サークルマップ (関連と定義), バブルマップ (クオリティ描写) ダブルバブルマップ (比較対照)
- ② 「一」線で考える (新しい視点で) … ツリーマップ (分類), ブレイスマップ (全体と構成要素), マリッジマップ (類似・相似比較)
- ③ 「□」四角で考える (考えを組み立てる) … フローマップ (連続・順序・つながり), マルチフローマップ (原因と結果・効果)
- ④ 重ねる・立体化する…ベン図 (帰属・構造・性質を明確化する), キュービング
- ⑤ 「△」三角で考える (思考図の総まとめ) … トライアングル, ピラミッド, RGIピラミッド, インバーテッドピラミッド

このように大庭の分類は、思考ではなく、使用するツールの図形の形で分類している。これは、例えば「比較」に「ダブルバブルマップ」「マリッジマップ」の二つが示されているように、異なる思考ツールでも同じ思考法をとることができる、逆に言うと、同じ思考ツールでも異なる思考法ができると考えているためであろう。

### (2) 桑田てるみによる分類

桑田てるみは、探究学習を六つのプロセス(桑田はこの過程を「ビッグ6」と呼ぶ)に分け、その探究の過程における思考ツール例を次のように示している<sup>7</sup>。

- ① テーマを決めよう…KWLチャート, クラスタリング, フッシュボーン, マッピ

ング, スパイダーマップ, WEB図, マンダラート法

- ② 調べるポイントをしまろう…5W1Hマップ, 論点作成マップ
- ③ 情報を集めよう…NDCマップ, キーワード・ビルダー
- ④ 情報を整理しよう…比較と対照, 問題と解決, 原因と結果, クラスタリング, 時系列マップ, 連鎖図
- ⑤ 論理的に表現しよう…論理フォーム, ツールミンモデル, 論理構築シート, ピラミッド型シート, 意見文シート, 論証文シート, 章構成のシート, プレゼンテーション構成のシート
- ⑥ 共有しふり返ろう…ふり返りシート, 新しい疑問のシート

桑田の分類は、総合学習に代表される問題解決のプロセスをふまえ、その過程ごとに「学び方を学ぶ」ために思考ツールを分類している。「④ 情報を整理しよう」における「比較と対照」は、大庭で言うところのベン図等であるが、思考の段階や内容に応じて、オリジナルに思考ツール作成していることが特徴である<sup>8</sup>。

### (3) 関大初等部による分類

関西大学初等部では、教科や総合学習における学習活動の利用目的に応じて次のように分類している<sup>9</sup>。

- ① 比較する…ベン図
- ② 分類する…Xチャート, Yチャート
- ③ 多面的に見る…くま手図, お魚ボーン図
- ④ 関連づける…コンセプトマップ
- ⑤ 構造化する…なぜなにシート, ピラミッドチャート
- ⑥ 評価する…PMI分析表

関大初等部は思考の段階ではなく、思考の種類によって、分類している。また、最終的に思考ツールを教師が示さなくても、子どもたちが白紙の紙に自分で思考ツールを書いて思考することを目標としている<sup>10</sup>ため、示す思考ツールの数を精選している点が特徴である<sup>11</sup>。

#### (4) 井上愛美による分類

井上愛美は、先行文献、ビジネス書、東京書籍の小学校教科書の分析から、思考ツールの特性をとらえた上で、小学校段階で習得しておく基本図解メモとして次の六つを示している<sup>12</sup>。

- ① ツリー図(上下関係や組織を明確にする)
- ② マトリックス(情報を整理したり、アイデアを発想したりする)
- ③ フロー図(時間とともに変わる事柄を可視化したり、原因や理由など因果関係を示したりする)
- ④ マインドマップ(自由に考えを連想していく)
- ⑤ ベン図(一見複雑に見えることを見極める)
- ⑥ グラフ(全体を把握したりも比較したり、変化を表したりする)

井上は、「『回想構造図』『分類図』『連関関係図』『集合関係図』『位置関係図』から少なくとも一つ以上選び、多様な用途で用いることで、図解メモの有益性を実感できるように」<sup>13</sup>するため、「六つの基本図解メモ」に絞っている点が特徴的である。

先行文献から言える点は、思考ツールの用語や内容の統一がまだまだなされていないということである。(例えば、桑田の「比較と対照」というのは、大庭や関大初等部におけるベン図にあたる。)また、例えば、「比較」一つ取っても「ダブルバブルマップ」「マリッジマップ」(大庭)、「比較と対照」(桑田)「ベン図」(関大初等部)というように、思考と思考ツールとの関連が整理されてはいない現状もある。

筆者は、思考ツールはあくまで思考を助けるためのツールであり、最終的には生徒が自分で思考ツールを自主的に使って思考することが理想であると考えている。桑田のように、使用目的に応じてオリジナルの思考ツールをどんどん発想することも構わないが、あくまで生徒が主体で行うべきであり、ベースとなる教師が示す思考ツールは、必要最小限に焦点化すべきである。この点は関大初等部や井上の主張と同じである。ただ、思考と思考ツールの関連につい

ては、まだまだ検討が必要である。例えば関大初等部はベン図を比較のツールと位置づけているが、多面的に見ることにも、関連づけることにも応用できるはずであり、応用可能な範囲は広い。単純な思考ツールを必要場面に応じて多様に用いる力を育成することが、学校教育においては必要であると考えている。井上についても同様で、「六つの基本図解メモ」の妥当性については、さらなる検討の余地があるだろう。(例えば、マインドマップは手法がかなりマニュアル化されており、国語科の授業に本当に必要なツールなのか疑問が残る。少なくとも筆者は、手軽なイメージ図で同等の効果があるものと考えている。グラフを「読む」のではなく「書く」ことについてもその必要性には疑問が残る。)

## 2 国語科の読みにおける思考ツールの先行実践

国語科の授業における思考ツールの実践はまだまだ少なく、そのほとんどが小学校によるものである。

### (1) 関大初等部による実践<sup>14</sup>

- ① 「天気を予想する」「アップとルーズで伝えよう」の二つの説明文を比較し、説明の仕方を見つける。(小5) …ベン図
- ② 二つの平仮名の文字を比較して、正しい文字の形を理解する。(小1) …ベン図
- ③ 言葉の上位概念と下位概念の関係を理解する。(小1) …ベン図
- ④ 立場や役割を意識して、筋道を立て、ディベートを行う。(小3) …ボーン図
- ⑤ 自分が考えたものを、「友だちに分かるように」組み立てて説明する。(小2) …なぜなにシート
- ⑥ 事実と意見の関係を考え、説明的文章を読む。(小3) …ピラミッドチャート
- ⑦ 物語(「大造じいさんとがん」)に込められたメッセージを想像しながら続き物語を書き、評価し合う。(小5) …PMI分析表

関大初等部の実践は、先に示した思考の種類による分類に基づいた実践であり、多様な実践

が評価できる。ただ、ディベートで多面的に見るには、ボーン図よりコンセプトマップの方が適している場合もあるように、思考ツールと思考の在り方については、検討の余地がある<sup>15</sup>。

(2) 浜上薫による実践<sup>16</sup>

- ① 「一つの花」で「お母さん」の行動の矛盾点の理由を考える。(小4) …ベン図
- ② 「やまなし」で五月と十二月を比較し、テーマを考える。(小6) …ベン図

浜上は、物語文の読みに重要な「比べる力」と「つなげる力」は表裏一体であり、要は「違い」と「共通性」のどちらに重きを置くかの違いである<sup>17</sup>とし、「ベン図」の有効性を主張している。しかし、実践というよりも教材研究の有効性としてのベン図という意味合いが強い。また、ベン図以外の他の思考ツール例は示されていない。

関大初等部は「比較する」「関連づける」を別の思考要素としてとらえ、異なる思考ツールを使用しているのに対し、浜上はベン図でどちらの思考も可能との立場をとる。

(3) 井上愛美による実践<sup>18</sup>

- ① 「手塚治虫」を読み取る。(小5)
  - ・初発の感想…マインドマップ
  - ・治虫の家族構成や影響を受けた人の整理…ツリー図
  - ・治虫の生涯の整理とまんがの技法の比較…マトリックス
  - ・まんがとアニメの制作数を年代別にグラフに表すことで、治虫が二つの夢をかなえたことや困難を乗り越えてきたことを読み取る。…グラフ
  - ・まんがを創作順に並べ、まんがに込められた治虫の願いを読み取る。…フロー図
  - ・治虫と自分との共通点や相違点を明らかにする。…ベン図
- ② 興味をもった人物の伝記を読み、心に残ったことを取り上げ、推薦のポスターを作り、ポスターセッションをする。
  - …①のツールを生徒が選択して使用。

井上の実践は、①でまず「六つの基本図解メモ」を教えることで、②において子どもたちがツールを選択して思考し、活用の学習に効果的であったと報告している。しかし、一教材で六つものツールを教えるのは疑問が残る。かえって子どもたちの思考ツールの有益性の実感を阻害することが危惧される。その教材に必要な思考のツール一つか二つを精選し、それを使う事で子どもが上達感や達成感を味わい、追究心や知的好奇心を刺激するような方法が望ましい。一つの思考ツールで複数の思考が可能であるならば、それは一つのツールに統一すべきであるし、それは、関大初等部や井上が主張するように、最終的に生徒が自分で思考ツールを自主的に使って思考するような、汎用性の高い、基本的なものに絞って示すべきであると考える。

3 国語科の読みにおける思考と思考ツール

国語科の読みの授業における思考と有効な思考ツールについて考察する。

国語科の読みの授業において一般的な三読法と思考との関係<sup>19</sup>を次に示す。

- I 「通読段階」
  - ・素読
  - ・註解…関連づける（語句の意味と文のつながり）
  - ・文章の直観…発想する（第一次直感）
- II 「精読段階」
  - ・主題の探究・決定
  - ・事象の精査および統一
  - ・解釈的構想作用
  - ・形式による自証

} ……………

比較する，分類する，多面的に見る  
…（キーワード等に着目し，作品を分析）

関連づける，構造化する，発想する（分析と主題との関連，たな主題の発想）
- III 「味読段階」
  - ・朗読
  - ・暗誦
  - ・感想発表

} … 評価する  
… 関連づける（批評）

これはあくまで仮説的なもので、整理の枠組みとして示したものである。授業のねらいによっては、各段階で他の思考を行うこともあるだろう。ただ、大きく次の2点が言える。

- ① 三読法の内、多様な思考を必要とするのは、精読段階である。ここで読みが深まったり、つまずきが生じたりする。
- ② よって、思考ツールを用いることが効果的なのも精読段階である。ここで用いる思考ツールを焦点化することで、生徒が自分で作品を分析し、解釈し、読んでいく力が育つ。

次に、精読段階で有効と思われる思考ツールを示す。

- ① 比較する…ベン図
- ② 分類する…ベン図
- ③ 多面的に見る…イメージマップ
- ④ 関連づける…ベン図, イメージマップ
- ⑤ 構造化する…ツリー図(樹形図)
- ⑥ 発想する…イメージマップ

ここに示した思考ツールも、仮説的なものがあるが、異なる思考でも同じ思考ツールを共用

できるものは、できる限り同じにしてある。3種類の思考ツールに絞ったが、3種類しかなく、単純だからこそ汎用性があり、生徒が自力で作品を読む力につながると考える。

次に、中学校国語科の読みの授業に思考ツールを用いることで、生徒の読みにどのように有効に働くかを検証する。

#### 4 中学校国語科における思考ツールを用いた読みの実践

(1) 対象：香川大学教育学部附属坂出中学校  
平成25年度3年3組(40名：男子20名女子20名)

(2) 実践1 「芭蕉を旅する」(おくの「ほそ道」を味わう) 25年6月実施

##### ① 単元の目標

芭蕉の旅観(人生観)と自分の旅観(人生観)を比較し、追究する中で、「おくのほそ道」の中にある現在や自分の存在を実感し、日本人、日本語、人生等について、自己の認識を深める。

##### ② 単元計画(全7時間)

「おくのほそ道」は、芭蕉の実体験の旅

学習の流れ	時間	教師の支援
・「旅」のイメージを出し合う。 ・「おくのほそ道」の概略を知る。 ・学習の見通しをもつ。	50分	・イメージマップに記述することで、自己の「ものがたり」の表出や対話のツールとして用いる。 ・初めに芭蕉の概略について語ることで、自己と比較しての問いと結びつけられるようにする。
・「冒頭」全文を読む。 ・旅に対する芭蕉の考えや、旅への思いを読む。	50分	・まず現代語訳をしっかりと読ませ、概要をつかませる。また、音読を繰り返すことで、芭蕉の思いを感じられるようにする。
・関連図書を読み「冒頭」と併せて芭蕉の旅観(人生観)を自分の旅観(人生観)と比較する。	50分 + 家庭学習	・思考スタイルに合わせ、選ぶ資料について個々に助言する。
・「平泉」を読み、「高館」「金色堂」を比較して気づいたことを交流し、自己の認識を深める。	50分×2	・ベン図で比較し、それをもとに話し合うように助言する。 ・新たな気づきはイメージマップを書き加えることで、自己の「ものがたり」をつむがせる。
・「閑さや・・」(立石寺)の推敲の過程から芭蕉の思想に気づき、交流することで自己の認識を更に深める。	50分	・ベン図で句を比較する中で、新たな気づきが生まれた箇所を明確化させる。 ・事前に個々の「ものがたり」を把握しておき、新たな気づきが生まれる班編成を工夫する。
・「芭蕉を旅する」批評文を書き、学びの意味を認識したり、価値を実感したりする。	50分 + 家庭学習	・イメージマップを俯瞰させ、自己の「ものがたり」の足跡を記述させることで、意味づけや価値の実感へとつなげられるようにする。

【図1 単元構成(下線は思考ツールの活用部分)】



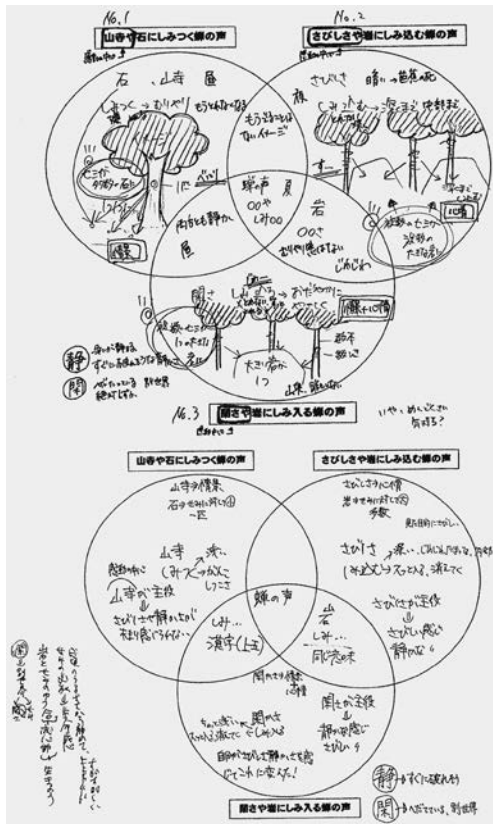
を、文学的虚構を交えて描いた紀行文である。芭蕉の人生観が色濃く反映されており、時代を超えて今と相通じるものがある。生徒は、自分とのかかわりにおいて作品世界を実感することで、自己の中に作品を位置づけることができる。それが文学体験として自己の「ものがたり」<sup>20</sup>をつむぐことになると考え、単元を設定した。(図1)

### ③ 思考ツールの活用

- ・自己の「ものがたり」の表出方法としてイメージマップを描き、更新させる。
- ・俳句の比較にベン図を用い、比較、分類の中で気づきを生み出し、自己の「ものがたり」を産出させるきっかけとする。
- ・イメージマップ、ベン図ともに、語り合うツールとして用い、自己の「ものがたり」を再構築する機会とする。

### ④ 思考ツール活用の実際

図2は、第6時で使用したベン図の例で



【図2 ベン図例 (第7時)】

ある。

生徒は、「閑さや岩にしみ入る蟬の声」の俳句と推敲の過程の「山寺や石にしみつく蟬の声」「さびしさや石岩にしみ入る蟬の声」の二つの俳句を比較し、ベン図に記入した。また、ベン図をもとに、小グループや全体で話し合いを行った。

### <話し合いの例>

S1 この1から3にかけて蟬の声の大きさが変わっているんですよ。「しみつく」っていうのは、「しみつく」くらいですから大きい。「しみ込む」っていうのは「じわっ」て感じなので中くらい。「しみ入る」っていうのはちょっとしかない。「ちよろちよろ」って感じなんで声の大きさを表している・・・。

T 絵を(黒板に)書いてください。同じですか? 「しみつく」「しみこむ」。

S2 「しみつく」は蟬の声が耳について離れないから嫌な感じがする。「しみ込む」は、深く、深い感じ。「しみ入る」は入ってくる感じ。

T どっちが深い?

S2 上(しみ込む)が。

(中略—筆者)

S3 まず蟬がみんなと鳴いてる時って、必ず千匹か二千匹くらいを聞いてるんですよ。それを普通に聞いている時の蟬の声と、しかも芭蕉は一人なんですよ。曾良もいると思いますけど。それを対比すると自分は一人で蟬は蟬っていうのにさみしさを感じてるのかなど。蟬が一匹ってというのは違うかなって。

T 鳴いてみて。「山寺や石にしみつく蟬の声」。

S3 ミーンミーンミーン。

T 次「さびしさや岩にしみ込む蟬の声」。

S3 ミーン。

T 「閑さや岩にしみ入る蟬の声」。

S3 ミーン。

T どう違うの?

S4 ちょっと「しみ込む」のほうがやや深い。

T 違うなって人は?

S5 「しみ込む」より「しみ入る」のほうが何か感情的? 「しみ込む」だったらスポンジとかでもしみ込む。「しみ入る」だったら「しみじみ」って言葉があるように心で感じているイメージなんで下のほうが深いと思います。

S6 3は浸透感がある。(下線部—筆者)

下線部は、句の言葉の違いについて話し合っている部分である。ベン図をもとに話し合うことで、話し合いが焦点化し、深い

考察が行えている。話し合いで友達の考えに納得した部分は、色を変えてベン図に付け加えることで、自分の思考の深まりを視覚的に自覚することができていた。

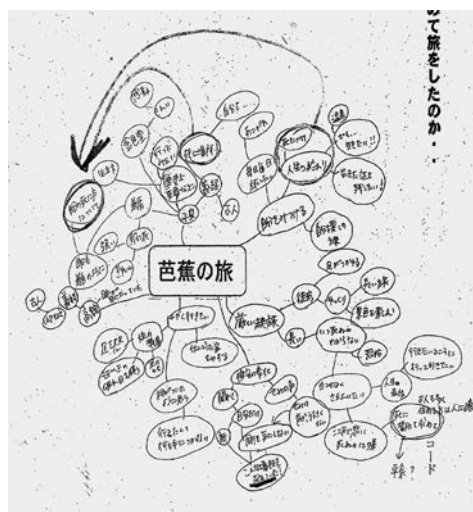
単元全体を通して、「芭蕉が旅で求めたものは何か」について追究した。図3のようなイメージマップを使用し、色を変えてつけ加えながら自分の考えを更新していった。

### 生徒Aのイメージマップの更新

- 第1時…「心のやすらぎ」「我が身を振り返る」「作品」の三つの枝から計10項目を記入した。
- 第2時…「心のやすらぎ」の枝に「あてもなくさまよいたい」「何かをさとりたい」を付け加えた。また、「死への思い」の枝を作り、「自分も旅を栖としたい」等7項目を記入した。
- 第3時…第2時の「何かをさとりたい」に「はかなさ」を付け加えた。
- 第4時…「平泉」の枝を作り、「感動」「自分の人生を振り返る」等、7項目を記入した。また、その中の「自分と照らし合わせる」を、第1時に記入した「多くの自然の豊かさを知ってもらう」と結びつけた。
- 第5時…第4時に記入した「自分の人生を振り返る」から「さとり」の項目を作り、「人は自然には対抗することができない」「無我の境地」など、8項目を記入した。また、「感動」を強強調させ、「はかなさ」の枝とつなげ「人生に例えた？」等5項目を加えた。
- 第6時間…第1時の「作品」の枝から、「閑かさや…」等の俳句を書いてつなぎ、「孤独」「自分と蟬を重ね合わせる」と記入した。
- 第7時…第1時の「死への思い」の欄から「旅に病んで…」の俳句を書いてつなぎ「生涯は旅で終わりたい」等3項目を記入し、第1時の「途中で死にたい」とつなげた。

イメージマップからは、生徒Aの芭蕉の旅観が更新していることが伺える。最終的にAは、「生涯旅をしながら感動を求め続けた」という主旨で評論文を書いた。生徒全員の記入項目を平均すると、43.5個であった。

生徒の振り返りからも、各自の旅観が更新し、思考が広がり、深まっていること（最終の振り返り例一下線部）が伺えた。



【図3 イメージマップ例】

### 最終の振り返り例（一部）

○今回のテーマ「芭蕉が求めたものは何か」というのは、毎回毎回いちいち自分なりの考えが変わっていった。最初は「死に場所」次は「無」次は「人生の極致」・・・とたくさんの意見が出た。これは、誰でも一人一人ちがった考えをもっていると思うし、全てがけこう納得のいくものだった。だから私は「全て正しい」と思う。また、人によって考えや意見や感じ方がちがうこと、それも俳句のだいごみだと思う。

○私にとって旅とは「楽しい」「一人」「日本中をまわる」といったイメージであった。しかし芭蕉の旅を追究していくと「悲しい」「人生」「深い」といったように考えが変わっていった。最終的には芭蕉は「新しい世界で人の営みによって残った物と残らないもの」もっと簡単に言えば「人の営みの跡」を求め続けたのではないかと考えるようになった。それは平泉での出来事と芭蕉の思い、東北に行こうと思った理由などの部分から分かる。私の考える旅とはどうやらほぼ正反対のようだ。もしかしたら芭蕉はそれを通して自分を見つめ直したかったのではないだろうか。ただの旅だと思っていた芭蕉の旅が、こんなに奥の深いものとは思わなかった。自分は人生を見直そうなんて考えていない、まだ14だからというものもあるが、どこまでも満足しない、ということが分かった気がする。人の営みだとかまだよく分からないけれど、自分も何か大きな目的を持って、旅を、長い旅をしてみたい。（下線部一筆者）

また、思考ツールの効果を生徒自身が自覚していることが、振り返りの記述（生徒

Aの振り返り(下線部)からも伺えた。

### 生徒Aの振り返り(抜粋)

マップに表してとても良かったなと思ったことは、あとから振り返りがすごくしやすいところだった。自分で考えて線をどんどんつなげたり、のばしていったりしているので、あとから見ても自分が一体何を考えていたのか、どうしてそう思ったのか、思い出すことができた。色を変えるということも記憶が混ざってしまったり、ごちゃごちゃになることを防ぐことができたので、自分で考えて、やっていったことは、案外頭に入ってるんだな—と実感できた。逆のこともありえるんだと痛感することもできた。ベン図については、似ているようで似ていないことがらを考えるときにとても便利だと思った。ベン図を用いない場合は、何と何が共通しているのか、どの点とどの点が違うのかというのがごちゃごちゃに混ざってしまい、明確な答えを導き出すことが難しかった。しかし、ベン図を用いると、まず自分の考えの整理ができる。そして、図に表しているわけだから、言葉だけを並べ、頭で考えていくよりよっぽど簡単だ。またそれを使って説明することもできる。ベン図という便利な表し方は、マップと同様振り返りもやりやすかったのも良かった。振り返りをするときは、やっぱり見やすく、分かりやすいというのが必要だと思う。(下線部一筆者)

#### ⑤ 思考ツール活用の効果

思考ツールを用いた実践の成果として次の点が挙げられる。

##### ア ベン図を用いた効果

・共通点と相違点が視覚化されることで、課題が焦点化され、共有された。これが話し合いを深めるものとなった。

・相違点(「山寺」「さびしさ」「閑さ」の違いなど)に着目することで、比較が容易に行えた。特に今回のように三つの事柄を同時に比較するような複雑な思考が必要な場合には有効である。

・重なり部分(「岩」「蟬の声」「しみ)の共通点に着目することで、芭蕉がこだわった事柄を関連づけて考えることができた。

・話し合いのツールとして有効に機能した。生徒たちは、話し合う際、互いのベン図を指し示しながら意見を述べたり質

問したりしていた。ノートに意見を記述して話し合う場合、生徒はどうしても記述を読みながら発言する傾向がある。逆に何も書かずに話し合うと、後に残らない音声言語のみでは話し合いが焦点化されないことが多い。ベン図はその両者の欠点を補うものである。

・自分の意見だけでなく、友達の意見を色を変えて付け加えていくことで、「発想する」「関連づける」思考が行えていた。

##### イ イメージマップを用いた効果

・自分の発想をどんどん広げていくツールとして効果があった。

・色を変えながら記入することで、自分の思考の足跡が視覚化され、思考の過程を一目でモニタリングできるものであった。これは、メタ認知的変容の自覚となり、特に最終の評論文作成の際に役立った。

・課題についての意見の交流の場で、ベン図と同様、話し合いのツールとして有効に機能した。

#### (3) 実践2「論理の展開に着目して読もう」

25年9月実施

##### ① 単元目標

同じ内容の三社の新聞記事を比較し、共通点や相違点を見つけ、書き手の意図を考えて意見文を書く。

##### ② 単元計画(全3時間)

・新聞記事を比較し、違いについて交流する。……………2時間

・自分自身の気づきや全体で交流した情報を基に意見文を書く。……………1時間

##### ③ 思考ツールの活用

三社の新聞記事を比較する際に、実践1で使用したベン図を用いる。ただし、比較の観点である「見出し」「写真」「リード文」「本文」「配置」などは生徒が自分で観点を決め、記入し、交流する。

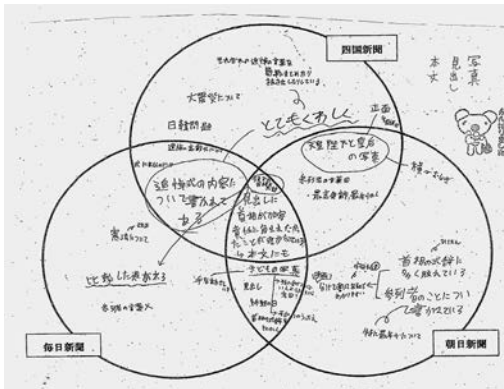
##### ④ 思考ツール活用の実際

8月16日の各新聞がいずれも一面トップで終戦記念日の記事を掲載しており、題材



に用いた。

生徒は普段から新聞を読み慣れておらず、複数の新聞を比較しながら読む生徒もほとんどいないという実態<sup>21</sup>の中での授業であった。当然文章内容も生徒の前理解を超えたものも含まれていたが、生徒はベン図を使いながら、自分の観点を決め、比較し、交流を行うことができていた。(図4)



【図4 新聞比較読みのベン図例】

### 最終意見文例

ほくは毎日新聞の記事が一番良いと思った。

毎日新聞は他社とは違い、子どもが手を合わせた写真を使っている。これは終戦したけれど子どもたちにも平和は受け継がれている、ということが書きたかったのではないかと思う。その点で見ると天皇陛下が手を合わせているよりも、子どもが手を合わせているほうが伝わりやすいだろう。

また後半では、安倍首相の式辞の変化、そして憲法と政治の変化のことについて述べられている。この変わる日本というものと変わらない日本ということの二つを対比して書いているのでおもしろい。

朝日新聞は「加害責任」に注目しているから良いという意見もあるが、ほくは本当に注目すべきなのは「平和」だと思う。八月十五日は終戦記念日で戦争が終わった日なのだ。たしかに安倍首相の発言も大事だろう。しかし、戦争が終わった日だ、ということが重要なのだ。

そのような視点から見ると、やはり「平和」を中心として書き、色々な工夫をしている毎日新聞が良いと思う。(下線部—筆者)

最終意見文の下線部のように、比較することで読みが深まったことが伺える。

### ⑤ 思考ツール活用の効果

実践1に加え、次の点が成果としてあげられる。

- ・新聞記事三社の比較という、生徒にとって難度が高い題材でも、読みの手がかりとなったり、深まったりするものとなる。
- ・思考ツールの型を学んでおけば、生徒は自分で観点を決めて比較したり、分析したり、考えを深めたりすることができる。

### (4) 実践3「小説を比較し、批評文を書こう」 〔風の唄〕〔いちご同盟〕25年11～12月実施

#### ① 単元の目標

作者の異なる二つの小説を読み比べ、批評し合う中で、主観的、分析的に作品をとらえ、批評文を書く。

#### ② 単元計画(全7時間)

両教材の共通点である、「恋愛」「死」「生きることの意味」などのモチーフや相違点の「視点」「色彩表現」「死の意味」等を分析的に着目し批評することで、一教材の読みだけはできない読みの力の向上が期待できる。批評を行う意欲を喚起するとともに、小説を学ぶ意味や価値を生徒が実感することを目的とし、単元を設定した。(図5)

#### ③ 思考ツールの活用

・分析の観点別に4分割したイメージマップを描き、更新させる中で、様々な観点から自分の思考を振り返り、批評へとつなげる。

・比較や分類の際に自分で思考ツールを用い、自己の読みの深まりや友達との交流に活かす。

#### ④ 思考ツール活用の実際

これまで実践1、実践2等で活用してきた思考ツールを自分で活用して比べ読みを行うことをねらいとした。

図6は、生徒が作成した思考ツールの例である。

生徒の思考ツールを分析すると、40名全員が何らかのツールの記述が行えており、自分の読みに活用したことが伺えた。

クラス全体の思考ツールの合計は94個（一人平均2.35個）であった。思考ツールを分類するとイメージマップが45個と最も多く、次にベン図が34個、ツリー図が12個、その他が3個であった。イメージマップとベン図が多いことから、本単元のような小説の読みには最も使用し易く、汎用性のあるツールであることが分かる。また、「その他」としては、二つのツールを組み合わせたものが2個、関係図をオリジナルに作成したものが1個であった。

作品を比較しやすいように教師が作成した4分割のイメージマップの例は図7のとおりである。「設定・視点」「表現」「構成・クライマックス」「主題」の4観点ごとに分けたのだが、生徒にとっては、図が煩雑になりすぎて使い難いものであったようだ。

単元の最後の批評文からは、思考ツールをもとに作品を比較したり、自分の考えの変容を自覚したりしている記述が全員に見られた。

#### 【生徒Bの批評文より抜粋】

##### <比較—共通点>

「いちご同盟」と「風の唄」では、人物の関係性や性格が似ている。第一に、主役と対役の関係だ。両作品とも、二人が正反対の人物だということ

ころからスタートし、最後にはお互いが良い関係を築いている。物語の大きな流れとして、この二つの作品は似通っているだろう。第二にどちらの主役も同じような性格をしているということである。北沢も東真も素直に気持ちを表現できないところがある。また、東真は美術、北沢は音楽と、二人とも芸術関係のものによくふれている。二人が入れ変わっても、作品的にはあまり変わらない気がする。…（以下略—筆者）

##### <比較—相違点>

「風の唄」では、文章中に鮮やかな色がたくさん取り入れられていて、物語の流れをよりスムーズにしている。しかし、「いちご同盟」では、あまり色による表現をしていない。色を使っていたとしても、暗めの色ばかりだ。これは、「いちご同盟」の物語自体が直美の死を中心に描かれており、あまり明るい色が使えないからだ。また、色で人物の気持ちを表現することにあまり重点を置いていないのだろう。…（以下略—筆者）

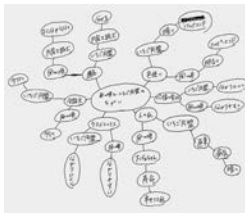
##### <考えの変容>

私は最初、「風の唄」を読んだときものすごく読みやすいなと感じた。ただその原因はまだ分かっていなかった。しかし、学習をすすめていくうちに、さまざまな情景描写や色彩表現が使われていることや、書き出しに工夫がなされていることに気づいた。作品にさまざまな仕かけをすることが、読みやすさにつながることを知り、とても参考になった。…（以下略—筆者）

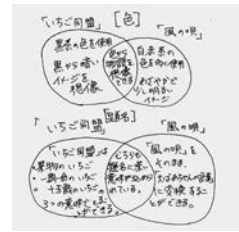
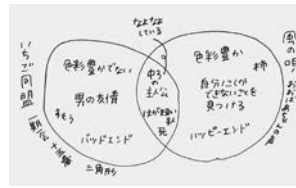
学習の流れ	時間	教師の支援
・「風の唄」を読み、あらすじを理解し、初発の解釈を書く。 ・学習の見直しをもつ。	50分	・イメージマップに記述することで、自己の「ものがたり」の表出や対話のツールとして用いる。
・「いちご同盟」を読み、あらすじを理解し、初発の解釈を書く。 ・「設定」に着目し、比較する。	50分	・ベン図で比較し、それをもとに話し合うように助言する。 ・新たな気づきはイメージマップを書き加えることで、自己の「ものがたり」をつむがせる。
・「人物」「クライマックス」「色」「題名」等に着目し、両作品の共通点と相違点について考える。	50分 × 3	・自分で着目した分析の観点をベン図で比較したり、関連させたりすることにより、読みの深まりに活かす。 ・事前に個々の分析の視点を把握しておき、対話の機会を促したり、発言がかみ合うように支援したりする。 ・事前に個々の「ものがたり」を把握しておき、新たな気づきが生まれる班編成を工夫する。
・学習全体を通して考えたことを、批評文にまとめる。	50分 + 家庭学習	・イメージマップを俯瞰させ、自己の「ものがたり」の足跡を記述させることで、意味づけや価値の実感へとつながられるようにする。

【図5 単元構成（下線は思考ツールの活用部分）】

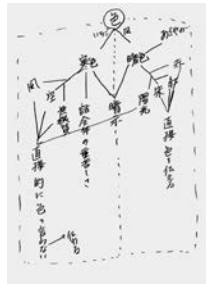
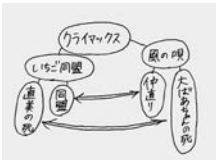
【イメージマップ】



【ベン図】



【ツリー図】



【その他】

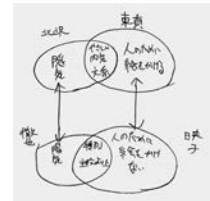
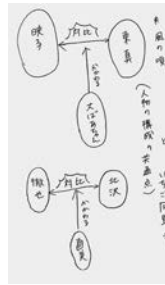


図6 生徒の作成した思考ツール例

⑤ 思考ツール活用の効果

実践1, 2に加え, 次の点が成果としてあげられる。

- ・小説を読む際に, 生徒は既習の思考ツールを目的にあわせて自分で使いこなし, 考えを広げたり, 深めたり, 対話したりすることができる。
- ・既習の思考ツールを応用して, オリジナルの思考ツールを生み出す生徒も出てくる。
- ・批評する際にも, 思考ツールは有効に働く。

(5) 事後アンケート結果から

実践3終了後に行ったアンケート結果(資料1)から分析する。

「国語科の読みにマップを使うことについてどう思いますか」という問いに対しては, 「とてもよい22人(55%), よい16人(40%), ふつう2人(5%), あまりよくない0人(0%)という結果であった。

「とてもよい」「よい」の理由としては, 「その時の気持ちや気づいたことが書ける」「自分の考えがまとめられて記録しやすい」といった, 使いやすさをあげた者が6名, 「より文章

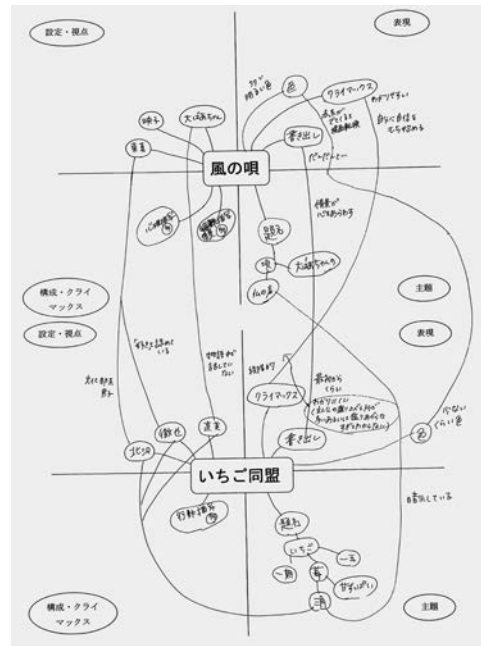


図7 単元を通して使用したイメージマップ例

を深く読むためにも考えを広げたりまとめたりする」「マップを書いていくことで部分部分を何回も読んでいき, 読んでいくうちに気づくこともある」といった読みの深まりをあげた生徒が26名, 「作品の特徴や印象などをまとめるこ

とができるので自分の読みが確かめられる」といった読みの確かめをあげた生徒が13名、「授業の前後を通して自分の考えの変容を知ることができ、それを残しておくことができる」「批評文を書くときに便利」と考えの変容やまとめをあげた生徒が11名、「自分の頭の中の考えが整理でき、自分考えを相手に伝えることができる」と対話のしやすさをあげた生徒が1名であった。

「ふつう」と答えた2名についても、「批評文を書くときに役立ったけど、今のマップだと事柄の分け方が難しかったので、順をおっていけるようにしたらもっと分かりやすかったと思った」「複雑に共通点や相違点が関わってきたとき、マップでは説明しにくい部分がでてくる。けれど端的にまとめるのであれば、よいと思う」と答えており、実践3における教師が作成した4分割のイメージマップが使いにくかったという理由である。教師が枠を設定しすぎると生徒の思考がかわって制限されるということであるが、思考ツール自体の効果を生徒が感じなかったというわけではない。

よって、一年間の実践を通し、読みの授業に思考ツールを用いることの有効性を、全員の生徒が自覚することができたといえる。

## 5 成果と課題

以上、授業分析の結果から、中学校国語科における読みの授業の過程で思考ツールを使うことの有効性が確認できた。それは次のような点によるものと考えられる。

- ① 国語科の読みの精読段階において必要な思考を「比較する」「分類する」「多面的に見る」「関連づける」「構造化する」「発想する」の六つに分け、具体化したこと。
- ② ①の思考に有効な思考ツールとしてベン図、イメージマップ、ツリー図の三つを教え、それを活用することで読みが広がり、深まったこと。
- ③ 思考ツールは読みの交流においても有効に機能し、読みの広がりや深まりにつ

ながったこと。

- ④ ②③により、自分の読みの広がりや深まりを実感できたことで思考ツールの有効性を生徒自身が自覚できたこと（メタ認知）。
- ⑤ ④により、既習の思考ツールを生徒自が活用して読むようになり、自力読みの力の育成となること。

もちろん、こうした方法に対しては、「読みの過程は六つの思考だけではない」「思考ツールによってかえて多様な思考を限定したものになる」という批判がつきまとう。しかし、中学生が実践1, 2を通して思考ツールの使い方を学び、実践3では思考ツールを使って考え、話し合い、自分の読みを創造し、批評文を書くことができたという点は特筆すべきであろう。全員が思考ツールを使って読みを行えたこと、思考ツールの有用性を自覚できた点からも、中学校における読みの授業に思考ツールを用いることは有効であると言える。

なぜ思考ツールが読みにおいて有効なのか。

秋田喜代美は、文章理解の過程を語と語の関係を文法的に解説し、最小の基本単位に「分ける過程」と、語と語、文と文、段落と段落とを「つなぐ過程」があると述べる<sup>22</sup>。さらに、これを助ける図のはたらきとして、「焦点化」（文章の重要な情報に目を向けさせる）「集約化」（内容を簡潔に整理してまとめる）「構造化」（文間の関係やつながりを示すことで構造を表す）「精緻化」（具体的な状況や書かれていない内容を補足して示す）の四つを示している<sup>23</sup>。

この四つのはたらきが生徒の頭の中で行われる際、思考ツールが有効に働き、理解を助けているのであろう。

今後の課題としては次の点が挙げられる。

- ① 今回仮説的に示した「読みにおける思考」と思考ツールをさらに実践によって精緻化していくこと。特に「説明的な文章」は実践2の新聞の比較読みしか行っていない。さらに実践を重ねることで、読みと思考、思考と思考ツールとの関係を整



理していく必要がある<sup>24</sup>。

- ② 「読むこと」だけでなく「話すこと・聞くこと」「書くこと」の思考と有効な思考ツールについても実践の中で研究していく必要がある。それにより、中学校国語科の授業における思考と思考ツールの全体像が明らかになり、「読むこと」の授業がより具体化していくであろう。

こうした課題の検証等については、別稿に譲ることとする。

#### 引用・参考文献

- <sup>1</sup> 鈴木木「小学校社会科における『考える力』としての思考技能育成：グラフィック・オーガナイザーを活用した学習活動の提案」『学苑・初等教育学科紀要776』2005, 68～82頁。尚、アメリカの教育における使用については、大庭コテイさち子『考える・まとめる・表現する—アメリカ式思考の技術』N T T出版, 2009に詳しいが、ここではシンキング・マップ（Thinking Map）として紹介されるなど、定まった名称がないのが現状である。
- <sup>2</sup> 学校全体の取り組みとしては、関大初等部『思考ツール 関大初等部式思考力育成法＜実践編＞』さくら社, 2013, 等がある。また、図書館教育の探究学習における情報読みの取り組みとして、桑田てるみ『中学生・高校生のための探究学習スキルワーク』全国学校図書館協議会, 2112, や足立幸子「グラフィック・オーガナイザーを使用した情報を活用する読書の指導」『月刊国語教育研究 No.461』日本国語教育学会, 2010, 9月, 4～9頁, 等がある。
- <sup>3</sup> 山本茂喜・川田英之・大西小百合「中学校における物語創作の方法と意義—ライティング・ワークショップを用いた授業の構想—（1）」『香川大学教育実践総合研究 第25号』香川大学教育学部附属教育実践総合センター, 2012.9, 1～13頁  
山本茂喜・川田英之・大西小百合「中学校における物語創作の方法と意義—ライティング・ワークショップを用いた授業の構想—（2）」『香川大学教育実践総合研究 第25号』香川大学教育学部附属教育実践総合センター, 2012.9, 14～25頁。
- 山本茂喜・川田英之・大西小百合「ビジュアル・ツールの活用と交流による創作指導の実践的研究」『香川大学教育実践総合研究 第26号』香川大学教育学部附属教育実践総合センター, 2013.3, 27～40頁
- <sup>4</sup> 桑田てるみ編『学校図書館とことばの教育研究会『思考力の鍛え方 学校図書館とつくる新しい「ことば」の授業』静岡学術出版, 2010, 119～120頁
- <sup>5</sup> 松本修は、文学の読みの交流による個の読みの変容には、解釈の変化としての認知的変容と、読みの方略の変化としてのメタ認知的変容があり、読みの乗り換えに重要なのは、メタ認知的変容であると指摘する。松本修『文学の読みと交流のナラトロジー』東洋館出版, 2006, 68～70頁
- <sup>6</sup> 注1の大庭の文献に同じ。24～68頁
- <sup>7</sup> 注4に同じ。119～129頁, および桑田てるみ編『6プロセスで学ぶ 中学生・高校生のための探究学習スキルワーク』全国学校図書館協議会, 2012をもとに、筆者が整理した。
- <sup>8</sup> 注4に同じ。127頁
- <sup>9</sup> 注2の関大初等部の文献に同じ。17, 98頁
- <sup>10</sup> 注2の関大初等部の文献に同じ。9頁。関大初等部の実践によると、低学年では思考ツールを教師が示す方が喜ぶが、高学年になると、枠があることでかえって自分の思考が制限され、考えにくさを感じてしまうため、思考ツールを示さない白紙の紙を要求する子どもが多かったり、オリジナルの思考ツールを作る子供が出たりすると報告している。
- <sup>11</sup> 関西大学初等部『思考ツールを使う授業 関大初等部式思考力育成法＜教科活用編＞』さくら社, 2014, 110～111頁, では、教科共通に求められる19の思考スキルを示しつつも、「指導するには多すぎる」として、6つの思考スキルを対象にしている。
- <sup>12</sup> 井上美愛『図解メモを用いた国語科学習』香川大学大学院修士論文, 2013, 46頁および60頁
- <sup>13</sup> 注12に同じ。46頁
- <sup>14</sup> 注2の関大初等部の文献に同じ。24～31, 34～38, 50～53, 70～77, 88～91頁
- <sup>15</sup> 注11の文献では、国語科として11の実践報告がなされている。内「読むこと」については、3例あるが、ベン図が2例、自作ワークシートの対話

シートが1例である。

- <sup>16</sup> 浜上薫『分析批評』で思考力を育てる』明治図書、2008、107～111頁
- <sup>17</sup> 注16に同じ。107頁
- <sup>18</sup> 注12に同じ。50～110頁
- <sup>19</sup> 国語教育研究所『国語教育研究大辞典』明治図書、1991、407頁の「三読法」の定義を基に、筆者が思考を加えて作成した。
- <sup>20</sup> 授業実践を行った香川大学教育学部附属坂出中学校では、ナラティブ・アプローチを学びに取り入れた自己の「ものがたり」をつむぐ授業研究を行っている。「物語」（語られたもの）「物語り」（語ること）の両義を含み、学びの価値の実感を重視する点で「ものがたり」と表記している。
- <sup>21</sup> 香川大学教育学部附属坂出中学校で25年9月に実施した全校アンケートでは、「ニュースなどの情報は新聞から得ている」と答えた生徒は31%、「新

聞記事を読むときは、その内容をいろんな新聞どうして比較するようにしている」と答えた生徒は7%、という結果であった。

- <sup>22</sup> 秋田喜代美『読む心・書く心 文章の心理学入門』北大路書房、2002、23頁
- <sup>23</sup> 注22に同じ。44頁
- <sup>24</sup> 筆者は説明的な文章の授業において思考ツールの一つである「K—W—L」を使った実践を行い、その有効性を明らかにしている。(川田英之「国語科の説明的な文章の読みの授業に『K—W—L』を導入する効果の検証」『香川大学教育実践総合研究 第28号』香川大学教育学部附属教育実践総合センター、2014.3、1～14頁)本論では一般的な三読法をもとにした読みにおける思考ツール活用の研究を行ったが、読書指導も含めた読みと思考ツールの活用については、研究の余地がある。

国語科の読みにマップを使うことについてどう思いますか

とてもよい 22人 (55%) よい16人 (40%) ふつう 2人 (5%) あまりよくない0人 (0%)

〔とてもよい・よい理由の主な理由〕

<使いやすさ> 6名

- ・その時の気持ちや気づいたことが書ける
- ・自分の考えがまとめられて記録しやすい
- ・前の時間の時自分が考えていたことなどマップを見ればすぐに分かる

<読みの深まり> 26名

- ・より文章を深く読むためにも考えを広げたりまとめたりする
- ・マップを書き進めていくことで部分部分を何度も読んでいき、読んでいくうちに気づくこともある
- ・書いているうちに新しい気づきがあったり思わぬ部分で対比できたりする
- ・人物の性格（共通点や相違点）や物語全体の構成を比較するときにとっても使いやすく関係が一目で分かる
- ・読んだだけではわからないつながり、関係が見える
- ・一つの観点からいろいろなことが分かり、それがどんどんつながっていくから読んでいると違う所でもこういう意見なんじゃないかと分かっていく

・新たな考えが浮かびやすい

<読みの確かめ> 13名

- ・作品の特徴や印象などをまとめることができるので自分の読みが確かめられる
- ・自分の考えの変化などがよく分かる、書くときに振り返ることで内容が深くなる
- ・対比などをマップで簡単に表している自分の意見が整理でき、すぐ文章にできる
- ・自分の頭の中の考えがマップとして整理されればそこから考えを深められる

<考えの変容、まとめ> 11名

- ・授業の前後を通して自分の考えの変容を知ることができ、それを残しておくことができる
- ・振り返りがしやすい
- ・批評文を書くときに便利
- ・考えが整理されていくので書いても眺めても役に立つ

<対話のしやすさ> 1名

- ・自分の頭の中の考えが整理でき、自分考えを相手に伝えることができる

〔ふつうの主な理由〕 2名

- ・批評文を書くときに役立ったけど、今のマップだと事柄の分け方が難しかったので、順をおっていけるようにしたらもっと分かりやすかったと思った
- ・複雑に共通点や相違点に関わってきたとき、マップでは説明しにくい部分がでてくる。けれど端的にまとめるのであれば、よいと思う

(理由は記述式。複数内容の回答については書かれている内容をもとに筆者が分類した。)

【資料1 事後アンケート結果】